

【二】次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

仁和寺にんなんじにある法師、年寄るまで(注1)石清水いししみずを拝まざりければ、(注2)心うく覚えて、あるとき⑦思おもひたちて、①ただ一人、徒歩かちより詣まうでけり。極楽寺ごくらくじ・高良かうらなどを拝みて、(注3)かばかりと心得て帰りにけり。

さて、(注4)かたへの人に⑧あひて、②年としごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊たうとく③こそおはし「けり」。

(注5)そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、(注6)ゆかしかりしかど、神へ参るこそ(注7)本意なれと思ひて、山までは見えずとぞ言ひける。

④少しのことにも、(注8)先達せんたちはあらまほしきことなり。

(語注)

(『徒然草』より)

1 石清水―国室石清水八幡宮いわしみず (京都府八幡市にある日本三十八幡宮の一つで、山全体が八幡宮である)

2 心うく覚えて―残念に思つて。残念に感じられて。

3 かばかりと心得て―これだけと思ひ込んで。

4 かたへの人―仲間の層

5 そも―それにしても。

6 ゆかしかりしかど―心が引かれましたが。

7 本意―本来の意思。まことの意味。本文では、本来の目的と訳す。

8 先達―先に立って案内する人。本文では、案内人と訳す。

問一 〓線部の⑦を現代仮名づかいに直して答えなさい。

ア	⑦
イ	①
ウ	

問二 〓線部①「ただ一人、徒歩より詣でけり」を現代語訳しなさい。

ア	
イ	
ウ	

問三 〓線部②は「長年思つていたことを果たせた」と訳すが、「年ごろ思いつること」とは具体的にどのようなことか。答えなさい。

ア	
イ	
ウ	

問四 〓線部③「こそ」の係助詞の結びとして、「けり」の適当な活用形を、ア～エの中から選んで、記号で答えなさい。

ア	
イ	
ウ	
エ	

問五 〓線部④「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」とあるが、その理由として最も適当なものをア～エの中から選んで、記号で答えなさい。

ア 一番大切な山の上にある神社を探したが、見つけられずに帰ってきたので、山を知り尽くした案内人が必要だと思った。

イ 石清水八幡宮まで一人で登ったので、帰り道に迷ってしまった、何十年も通っている案内人が必要だと思った。

ウ 山の頂上からの帰り道に、仲間の僧侶に会ってしまったので、抜け道を知っている案内人が必要だと思った。

エ 山の上にある上院を知らず、極楽寺・高良だけを参拝して帰ってきたので、八幡宮に詳しい案内人が必要だと思った。

ア	
イ	
ウ	
エ	

【三】次の〓線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ①金メダル獲得の吉報を待ち望む。 ②航海中の船が浅瀬で座礁した。 ③哲学者プラトン。 ④湾岸道路をドライブする。

①					
②					
③					
④					

【四】次の〓線部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ①フクシの仕事にかかわる。 ②日本の平均ジニ係数が伸びる。 ③新しいギカクを考案した。 ④公共のシセツを利用する。

①					
②					
③					
④					

【五】次の①～④の語が対義語になるように□から適語を選び、漢字一字に直して答えなさい。

- ①警戒 ↑ ↓ 油 □ ②貯蓄 ↑ ↓ 消 □ ③急性 ↑ ↓ □性 ④攻撃 ↑ ↓ □御

だん	・	まん	・	ひ	・	ぼう
----	---	----	---	---	---	----

①					
②					
③					
④					

【六】次の①～④の四字熟語には漢字の誤りが一字あります。その漢字を抜き出し、正しい漢字に直して答えなさい。

- ①意気昇沈 ②一綱打陳 ③悪線苦闘 ④危機一発

①	
正	誤
②	
正	誤
③	
正	誤
④	
正	誤

受験番号	
------	--